

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／資産複合	
信託期間	2014年11月28日から2024年11月14日までです。	
運用方針	インフラ関連好配当資産マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）を通じて、主として、わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の株式等および不動産投資信託証券（以下、「J-REIT」といいます。）に投資を行い、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長を目指して運用を行います。 マザーファンドにおける銘柄選択ならびに資産配分に関して、リソナアセットマネジメント株式会社の投資助言を受けます。 円建て資産について、原則として円売り米ドル買いの外国為替予約取引等を行い、米ドルへの投資効果を享受することを目指します。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。
	インフラ関連好配当資産マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の株式等およびJ-REITを主要投資対象とします。
投資制限	当ファンド	マザーファンドの受益証券への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	インフラ関連好配当資産マザーファンド	株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	毎月14日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。繰越分を含めた経費控除後の配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。	

運用報告書（全体版）

インフラ関連好配当資産ファンド （毎月決算型）（米ドル投資型） （愛称 インフラ・ザ・ジャパン（米ドル投資型））

第73期（決算日 2020年12月14日） 第76期（決算日 2021年3月15日）
第74期（決算日 2021年1月14日） 第77期（決算日 2021年4月14日）
第75期（決算日 2021年2月15日） 第78期（決算日 2021年5月14日）

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

皆様の「インフラ関連好配当資産ファンド（毎月決算型）（米ドル投資型）（愛称 インフラ・ザ・ジャパン（米ドル投資型）」は、2021年5月14日に第78期決算を迎えましたので、過去6ヵ月間（第73期～第78期）の運用状況ならびに決算のご報告を申し上げます。

今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社営業部 セールスサポートグループへ
フリーダイヤル ☎ 0120-048-214（営業日の9:00～17:00）

[ホームページ]

<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。

○最近30期の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			合 成 (参考指数)	指 数		株 式 組 入 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 分	込 配 金	期 騰 落 中 率		期 騰 落 中 率				
	円		円	%	ポイント		%	%	%	百万円
49期(2018年12月14日)	9,094		30	△ 1.4	13,910.41		△ 0.7	44.8	48.2	18,481
50期(2019年1月15日)	8,574		30	△ 5.4	13,003.66		△ 6.5	48.7	43.0	17,340
51期(2019年2月14日)	8,912		30	4.3	13,743.76		5.7	40.9	51.2	17,865
52期(2019年3月14日)	8,967		30	1.0	13,935.73		1.4	45.2	48.6	17,756
53期(2019年4月15日)	9,087		30	1.7	14,298.08		2.6	45.7	47.2	17,568
54期(2019年5月14日)	8,710		30	△ 3.8	13,653.58		△ 4.5	45.3	49.6	16,490
55期(2019年6月14日)	8,744		30	0.7	13,784.71		1.0	50.4	43.1	16,393
56期(2019年7月16日)	8,963		30	2.8	14,112.76		2.4	40.4	52.5	16,621
57期(2019年8月14日)	8,642		30	△ 3.2	13,701.52		△ 2.9	40.1	53.9	15,858
58期(2019年9月17日)	9,274		30	7.7	14,761.73		7.7	46.5	46.1	16,691
59期(2019年10月15日)	9,588		30	3.7	15,288.30		3.6	42.0	52.7	16,133
60期(2019年11月14日)	9,549		30	△ 0.1	15,304.13		0.1	48.7	47.1	14,164
61期(2019年12月16日)	9,678		30	1.7	15,618.94		2.1	48.0	46.4	13,401
62期(2020年1月14日)	9,825		30	1.8	15,883.97		1.7	46.1	46.6	13,079
63期(2020年2月14日)	9,916		30	1.2	16,047.24		1.0	50.0	42.7	12,669
64期(2020年3月16日)	6,949		30	△29.6	11,118.64		△30.7	51.3	41.5	8,709
65期(2020年4月14日)	7,641		30	10.4	12,296.73		10.6	51.1	41.6	9,554
66期(2020年5月14日)	7,724		30	1.5	12,432.38		1.1	45.4	47.5	9,652
67期(2020年6月15日)	8,015		30	4.2	13,050.04		5.0	41.1	51.5	9,973
68期(2020年7月14日)	8,284		30	3.7	13,361.55		2.4	46.1	47.5	10,287
69期(2020年8月14日)	8,479		30	2.7	13,670.97		2.3	46.2	45.8	10,346
70期(2020年9月14日)	8,409		30	△ 0.5	13,786.41		0.8	46.4	46.8	10,104
71期(2020年10月14日)	8,516		30	1.6	13,825.04		0.3	50.0	42.7	10,129
72期(2020年11月16日)	8,518		30	0.4	13,976.12		1.1	51.1	41.6	9,958
73期(2020年12月14日)	8,626		30	1.6	14,269.09		2.1	41.2	51.8	9,845
74期(2021年1月14日)	9,008		30	4.8	14,825.35		3.9	51.6	41.4	10,104
75期(2021年2月15日)	9,544		30	6.3	16,091.77		8.5	47.1	46.8	10,351
76期(2021年3月15日)	9,884		30	3.9	16,833.41		4.6	50.2	42.5	10,339
77期(2021年4月14日)	10,164		30	3.1	17,286.47		2.7	41.8	53.0	10,271
78期(2021年5月14日)	9,963		30	△ 1.7	16,930.16		△ 2.1	40.5	51.1	9,822

(注) 基準価額および分配金（税引前）は1万口当たり、基準価額の騰落率は分配金（税引前）込み。

(注) 合成指数は当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。合成指数は、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）50%および東証REIT指数（配当込み）50%を合成した指数を米ドル換算したものです。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、株式組入比率および投資信託証券組入比率は実質比率を記載しております。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

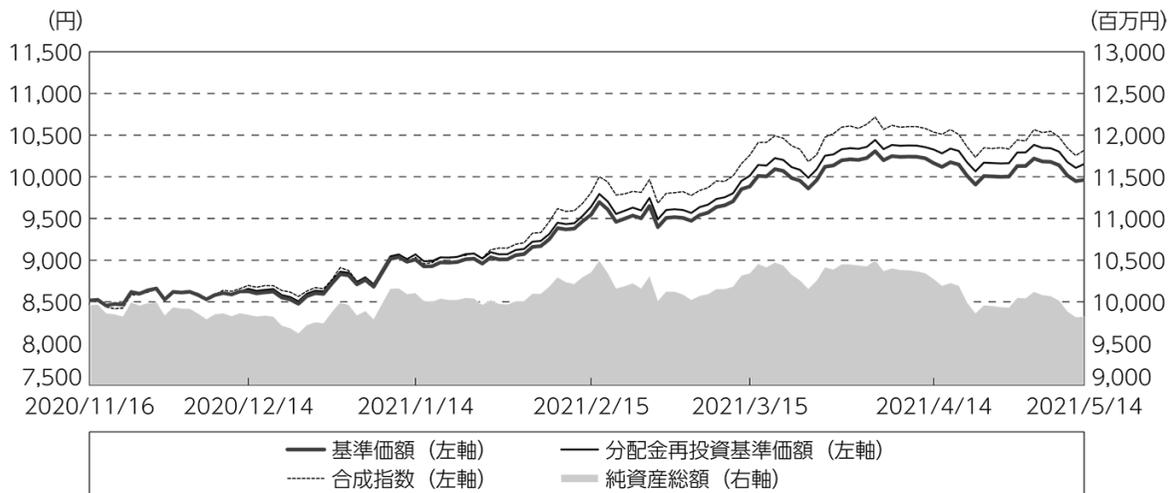
決算期	年 月 日	基準 価 額		合 成 指 数		株 組 入 比 率	投 資 信 託 証 券 組 入 比 率
			騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
第73期	(期 首) 2020年11月16日	円 8,518	% —	ポイント 13,976.12	% —	% 51.1	% 41.6
	11月末	8,527	0.1	13,989.83	0.1	52.2	41.9
	(期 末) 2020年12月14日	8,656	1.6	14,269.09	2.1	41.2	51.8
第74期	(期 首) 2020年12月14日	8,626	—	14,269.09	—	41.2	51.8
	12月末	8,819	2.2	14,563.49	2.1	41.2	53.4
	(期 末) 2021年1月14日	9,038	4.8	14,825.35	3.9	51.6	41.4
第75期	(期 首) 2021年1月14日	9,008	—	14,825.35	—	51.6	41.4
	1月末	9,010	0.0	15,004.37	1.2	50.5	44.2
	(期 末) 2021年2月15日	9,574	6.3	16,091.77	8.5	47.1	46.8
第76期	(期 首) 2021年2月15日	9,544	—	16,091.77	—	47.1	46.8
	2月末	9,396	△1.6	15,887.56	△1.3	46.7	48.4
	(期 末) 2021年3月15日	9,914	3.9	16,833.41	4.6	50.2	42.5
第77期	(期 首) 2021年3月15日	9,884	—	16,833.41	—	50.2	42.5
	3月末	10,210	3.3	17,408.04	3.4	50.0	44.1
	(期 末) 2021年4月14日	10,194	3.1	17,286.47	2.7	41.8	53.0
第78期	(期 首) 2021年4月14日	10,164	—	17,286.47	—	41.8	53.0
	4月末	10,130	△0.3	17,113.99	△1.0	41.0	53.1
	(期 末) 2021年5月14日	9,993	△1.7	16,930.16	△2.1	40.5	51.1

(注) 期末基準価額は1万円当たり分配金（税引前）込み、騰落率は期首比。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

（2020年11月17日～2021年5月14日）



第73期首：8,518円

第78期末：9,963円（既払分配金（税引前）：180円）

騰落率：19.2%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 参考指数は、合成指数です。
- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、作成期首（2020年11月16日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの主要投資対象である「インフラ関連好配当資産マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）」における基準価額の主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

（主なプラス要因）

（国内株式）

・東京エレクトロン、伊藤忠商事、クボタなどへの投資。

（J-R E I T）

・日本都市ファンド投資法人、野村不動産マスターファンド投資法人、日本プライムリアルティ投資法人などへの投資。

（主なマイナス要因）

（国内株式）

・ショーボンドホールディングス、野村総合研究所、東急などへの投資。

（J-R E I T）

・MCUBS M i d C i t y 投資法人、日本プロロジスリート投資法人、伊藤忠アドバンス・ロジスティクス投資法人などへの投資。

なお、当ファンドは円売り米ドル買いの外国為替予約取引を行っているため、作成中に米ドルが対円で上昇したことが基準価額のプラス要因となりました。

投資環境

（2020年11月17日～2021年5月14日）

国内株式市場は、米国や英国などにおいて新型コロナウイルスのワクチン接種が開始されたことを受けて、世界経済の早期正常化に対する期待が高まり、2020年末にかけて上昇しました。2021年に入ってから、2020年10-12月期の企業業績が事前予想を大きく上回り、通期の業績見通しが上方修正されたことに加え、世界的に新型コロナウイルスの新規感染者数が減少に転じ、国内でも医療従事者向けにワクチン接種が始まったことなどから上昇し、日経平均株価は2月中旬に3万円の大台を突破しました。しかしその後は、米国の長期金利が急上昇したことに加え、国内で新規感染者数が再び増加し東京・大阪などで緊急事態宣言が再発令されたことなどが嫌気され、作成期末にかけて上値の重い展開となりました。

J-R E I T市場は、経済活動正常化への期待や投資家心理の改善に加え、日本株対比での出遅れ感などから、2021年2月中旬にかけて大きく上昇しました。その後3月上旬にかけては、米金利上昇の悪影響が意識されたことなどから、下落しました。しかし作成期末にかけては、米国の金利上昇に一服感が見られたことや世界的に新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいることから、投資家のリスク選好姿勢が強まり、再び上昇しました。

米ドル/円相場は、作成期を通じて上昇しました。米国の長期金利上昇や堅調な株価動向等を背景に、米ドル高円安の展開となりました。

当ファンドのポートフォリオ

（2020年11月17日～2021年5月14日）

円売り米ドル買いの外国為替予約取引の額が純資産総額比で高位となるように調整しました。

国内株式およびJ-R E I Tの運用はマザーファンドを通じて行いました。マザーファンドの運用につきましては、銘柄選択ならびに資産配分に関して、りそなアセットマネジメント株式会社の投資助言を受けました。

資産配分に関しては、2020年11月、2021年1月、3月は株式への投資比率をJ-R E I T比で概ね高めとする一方、2020年12月、2021年4月は株式への投資比率をJ-R E I T比で概ね低めとしました。2021年2月は、株式とJ-R E I Tの投資比率は概ね同等としました。

国内株式では、新型コロナウイルスのワクチン接種の開始による経済活動の回復やインフラ設備投資、脱炭素政策、社会のデジタル化などコロナ禍収束後の社会を見据えた銘柄入れ替えを行いました。社会インフラの低炭素化・脱炭素化に貢献することが期待できる電気機器株や社会のデジタル化による半導体需要の増加の恩恵が見込まれる化学株を新規で組み入れました。一方、新型コロナウイルスの影響が長引く中で業績回復が遅れている陸運株などを売却しました。

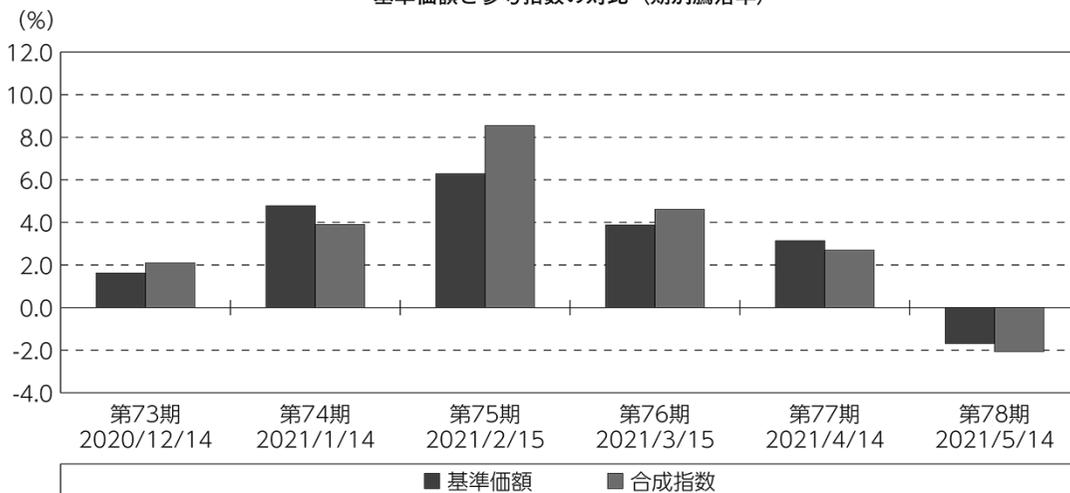
J-REITでは、相対的に高水準の配当金の確保を図りつつ、長期的な値上がり益の確保を目指して運用を行いました。新型コロナウイルスのワクチン接種の開始などにより、需要の回復が期待されるオフィス型リート銘柄を買い増しする一方、テナントの退去やホテルの稼働率低下による収益悪化が懸念される複合型リート銘柄を一部売却しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2020年11月17日～2021年5月14日）

当ファンドは特定のベンチマークを設けておりませんが、分配金も考慮した当ファンドの基準価額の騰落率は、参考指数（東証株価指数（TOPIX）（配当込み）50%および東証REIT指数（配当込み）50%を合成した指数を米ドル換算した指数）の騰落率を1.9%下回りました。詳細につきましては、前掲の「基準価額の主な変動要因」をご参照ください。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



（注）基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

（注）参考指数は、合成指数です。

分配金

（2020年11月17日～2021年5月14日）

当ファンドは、毎月14日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して分配金額を決定します。

当作成期中につきましては、第73期、第74期、第75期、第76期、第77期、第78期の決算時にそれぞれ1万口当たり30円（税引前）、合計180円（税引前）の分配を行いました。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

（単位：円、1万口当たり・税引前）

項 目	第73期	第74期	第75期	第76期	第77期	第78期
	2020年11月17日～ 2020年12月14日	2020年12月15日～ 2021年1月14日	2021年1月15日～ 2021年2月15日	2021年2月16日～ 2021年3月15日	2021年3月16日～ 2021年4月14日	2021年4月15日～ 2021年5月14日
当期分配金 （対基準価額比率）	30 0.347%	30 0.332%	30 0.313%	30 0.303%	30 0.294%	30 0.300%
当期の収益	11	14	14	29	30	—
当期の収益以外	18	15	15	0	—	30
翌期繰越分配対象額	205	190	175	174	423	393

（注）対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

国内株式市場は、堅調な推移になると予想します。英国や米国など新型コロナウイルスのワクチン接種が進む国では、経済正常化への道筋が見えてきました。これまで接種が遅れていた国内でも、接種ペースが加速すると見られています。今後、ワクチン接種の進展に伴い、製造業の回復が先行していた企業業績では、遅れていたサービス業についても回復が鮮明になると見えています。堅調な米国株式市場に対し出遅れ感が目立つ国内株式市場も、ワクチン接種が進むことで経済正常化への期待が高まり、上値を試す展開へ移行していくと予想しています。

J-REIT市場は、高値圏でもみ合う展開が続くと考えます。当面は緊急事態宣言の再発令による経済への悪影響や、投資家心理の悪化がJリート市場の上値を抑える要因になると見えています。しかし、緊急事態宣言の再発出による行動制限に対しても、リートの業績予想は2020年の経験を踏まえて保守的に作られていると見られ、業績下振れリスクは限定的と想定しています。また、不動産売買市場は新型コロナウイルス感染拡大後でも概ね堅調で、リートが保有する物件価格が安定していることも下支え要因になると見えています。

引き続き銘柄選択ならびに資産配分に関して、りそなアセットマネジメント株式会社の投資助言を受けます。

為替に関しては、円売り米ドル買いの外国為替予約取引が純資産総額比で高位となるように調整していく方針です。

○ 1万口当たりの費用明細

（2020年11月17日～2021年5月14日）

項 目	第73期～第78期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円	%	(a) 信託報酬＝作成期間中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(35)	(0.378)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(35)	(0.378)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(3)	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	8	0.087	(b) 売買委託手数料＝作成期間中の売買委託手数料÷作成期間中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	(4)	(0.048)	
（ 投 資 信 託 証 券 ）	(4)	(0.039)	
(c) そ の 他 費 用	1	0.006	(c) その他費用＝作成期間中のその他費用÷作成期間中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	その他は、金銭信託支払手数料
合 計	82	0.875	
作成期間中の平均基準価額は、9,348円です。			

(注) 作成期間中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

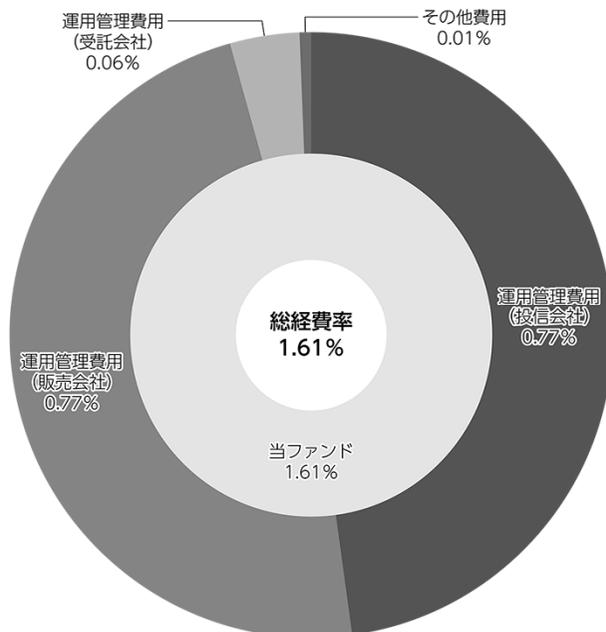
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○総経費率

作成期間中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間中の平均受益権口数に作成期間中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.61%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

（2020年11月17日～2021年5月14日）

○売買及び取引の状況とは、ファンドが購入・売却した有価証券の数量および金額です。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	第73期～第78期			
	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
インフラ関連好配当資産マザーファンド	千口 46,489	千円 70,000	千口 1,153,676	千円 1,670,000

（注）単位未満は切捨て。

○株式売買比率

（2020年11月17日～2021年5月14日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	第73期～第78期	
	インフラ関連好配当資産マザーファンド	
(a) 当作成期中の株式売買金額	10,796,442千円	
(b) 当作成期中の平均組入株式時価総額	8,620,340千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.25	

（注）(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

（2020年11月17日～2021年5月14日）

利害関係人との取引状況

<インフラ関連好配当資産ファンド（毎月決算型）（米ドル投資型）（愛称 インフラ・ザ・ジャパン（米ドル投資型））>

該当事項はございません。

<インフラ関連好配当資産マザーファンド>

区 分	第73期～第78期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 3,904	百万円 23	% 0.6	百万円 6,892	百万円 1,582	% 23.0
投資信託証券	4,464	—	—	4,441	886	20.0

平均保有割合 54.7%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	第73期～第78期
売買委託手数料総額 (A)	8,753千円
うち利害関係人への支払額 (B)	1,198千円
(B) / (A)	13.7%

(注) 売買委託手数料総額は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三証券です。

○組入資産の明細

(2021年5月14日現在)

親投資信託残高

銘 柄	第72期末	第78期末	
	口 数	口 数	評 価 額
インフラ関連好配当資産マザーファンド	千口 7,275,156	千口 6,167,969	千円 9,351,876

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2021年5月14日現在)

項 目	第78期末	
	評 価 額	比 率
インフラ関連好配当資産マザーファンド	千円 9,351,876	% 94.6
コール・ローン等、その他	530,215	5.4
投資信託財産総額	9,882,091	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第73期末	第74期末	第75期末	第76期末	第77期末	第78期末
	2020年12月14日現在	2021年1月14日現在	2021年2月15日現在	2021年3月15日現在	2021年4月14日現在	2021年5月14日現在
	円	円	円	円	円	円
(A) 資産	19,418,945,445	19,800,853,571	20,170,492,917	20,032,267,484	20,324,502,516	19,577,663,981
コール・ローン等	586,766,729	489,684,656	365,210,839	518,179,889	213,175,522	517,312,888
インフラ関連好配当資産マザーファンド(評価額)	9,448,676,019	9,695,632,394	9,958,021,072	9,867,867,171	10,099,746,904	9,351,876,051
未収入金	9,383,502,697	9,615,536,521	9,847,261,006	9,646,220,424	10,011,580,090	9,708,475,042
(B) 負債	9,573,277,040	9,696,777,856	9,818,721,399	9,692,339,751	10,052,977,158	9,754,689,731
未払金	9,485,884,022	9,606,422,286	9,699,000,111	9,598,703,365	9,980,913,301	9,695,572,534
未払収益分配金	34,240,514	33,651,013	32,540,196	31,383,108	30,316,048	29,579,433
未払解約金	40,958,376	43,212,295	72,973,844	49,714,934	28,029,558	16,276,600
未払信託報酬	12,102,617	13,394,292	14,108,333	12,450,695	13,620,537	13,167,843
未払利息	458	172	119	265	80	214
その他未払費用	91,053	97,798	98,796	87,384	97,634	93,107
(C) 純資産総額(A-B)	9,845,668,405	10,104,075,715	10,351,771,518	10,339,927,733	10,271,525,358	9,822,974,250
元本	11,413,504,894	11,217,004,596	10,846,732,107	10,461,036,008	10,105,349,389	9,859,811,067
次期繰越損益金	△ 1,567,836,489	△ 1,112,928,881	△ 494,960,589	△ 121,108,275	166,175,969	△ 36,836,817
(D) 受益権総口数	11,413,504,894口	11,217,004,596口	10,846,732,107口	10,461,036,008口	10,105,349,389口	9,859,811,067口
1万口当たり基準価額(C/D)	8,626円	9,008円	9,544円	9,884円	10,164円	9,963円

(注) 純資産総額が元本総額を下回っており、その差額は第73期1,567,836,489円、第74期1,112,928,881円、第75期494,960,589円、第76期121,108,275円、第78期36,836,817円です。

(注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、第73期0.8626円、第74期0.9008円、第75期0.9544円、第76期0.9884円、第77期1.0164円、第78期0.9963円です。

(注) 当ファンドの第73期首元本額は11,691,414,422円、第73～78期中追加設定元本額は67,419,499円、第73～78期中一部解約元本額は1,899,022,854円です。

○損益の状況

項 目	第73期	第74期	第75期	第76期	第77期	第78期
	2020年11月17日～ 2020年12月14日	2020年12月15日～ 2021年1月14日	2021年1月15日～ 2021年2月15日	2021年2月16日～ 2021年3月15日	2021年3月16日～ 2021年4月14日	2021年4月15日～ 2021年5月14日
	円	円	円	円	円	円
(A) 配当等収益	△ 8,581	△ 7,437	△ 3,872	△ 2,622	△ 3,186	△ 4,363
受取利息	564	261	138	109	—	—
支払利息	△ 9,145	△ 7,698	△ 4,010	△ 2,731	△ 3,186	△ 4,363
(B) 有価証券売買損益	170,117,244	475,060,599	627,981,843	400,177,784	327,146,345	△156,108,415
売買益	288,439,666	514,240,137	669,219,845	429,521,642	441,829,305	75,316,501
売買損	△ 118,322,422	△ 39,179,538	△ 41,238,002	△ 29,343,858	△114,682,960	△231,424,916
(C) 信託報酬等	△ 12,189,426	△ 13,490,246	△ 14,209,422	△ 12,538,474	△ 13,716,646	△ 13,260,596
(D) 当期繰越益金(A+B+C)	157,919,237	461,562,916	613,768,549	387,636,688	313,426,513	△169,373,374
(E) 前期繰越損益金	△1,654,278,305	△1,482,094,900	△1,002,135,351	△389,872,200	△ 31,952,349	244,751,867
(F) 追加信託差損益金	△ 37,236,907	△ 58,745,884	△ 74,053,591	△ 87,489,655	△ 84,982,147	△ 82,635,877
(配当等相当額)	(255,339,545)	(230,328,543)	(206,374,075)	(183,322,928)	(176,622,917)	(172,679,957)
(売買損益相当額)	(△ 292,576,452)	(△ 289,074,427)	(△ 280,427,666)	(△270,812,583)	(△261,605,064)	(△255,315,834)
(G) 計(D+E+F)	△1,533,595,975	△1,079,277,868	△ 462,420,393	△ 89,725,167	196,492,017	△ 7,257,384
(H) 収益分配金	△ 34,240,514	△ 33,651,013	△ 32,540,196	△ 31,383,108	△ 30,316,048	△ 29,579,433
(H) 繰越損益金(G+H)	△1,567,836,489	△1,112,928,881	△ 494,960,589	△121,108,275	166,175,969	△ 36,836,817
追加信託差損益金	△ 58,230,490	△ 75,672,623	△ 90,360,238	△ 88,000,364	△ 84,982,147	△ 82,635,877
(配当等相当額)	(234,363,390)	(213,419,034)	(190,082,080)	(182,839,627)	(176,668,928)	(172,690,072)
(売買損益相当額)	(△ 292,593,880)	(△ 289,091,657)	(△ 280,442,318)	(△270,839,991)	(△261,651,075)	(△255,325,949)
分配準備積立金	—	—	—	—	251,158,116	215,172,434
繰越損益金	△1,509,605,999	△1,037,256,258	△ 404,600,351	△ 33,107,911	—	△169,373,374

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 収益分配金

決算期	第73期	第74期	第75期	第76期	第77期	第78期
(a) 配当等収益(費用控除後)	13,246,931円	16,724,274円	16,233,549円	30,872,399円	54,423,380円	0円
(b) 有価証券等損益額(費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円	0円	0円	0円	227,050,784円	0円
(c) 信託約款に規定する収益調整金	255,356,973円	230,345,773円	206,388,727円	183,350,336円	176,668,928円	172,690,072円
(d) 信託約款に規定する分配準備積立金	0円	0円	0円	0円	0円	244,751,867円
分配対象収益(a+b+c+d)	268,603,904円	247,070,047円	222,622,276円	214,222,735円	458,143,092円	417,441,939円
分配対象収益(1万円当たり)	235円	220円	205円	204円	453円	423円
分配金額	34,240,514円	33,651,013円	32,540,196円	31,383,108円	30,316,048円	29,579,433円
分配金額(1万円当たり)	30円	30円	30円	30円	30円	30円

用語解説

○資産、負債、元本及び基準価額の状況は、期末における資産、負債、元本及び基準価額の計算過程を表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
資産	ファンドが保有する財産の合計です。
コール・ローン等	金融機関向けの安全性の高い短期貸付運用などの残高です。
各種有価証券等(評価額)	組入れた株式・債券・ファンドなどの評価金額です。
未収入金	入金が予定されている有価証券の売却代金などです。
未収配当金	入金が予定されている株式の配当金等です。
未収利息	入金が予定されているコール・ローン等の利息や債券の利息の合計です。
負債	支払いが予定されている金額の合計です。
未払収益分配金	期末時点で支払いが予定されている収益分配金です。
未払解約金	支払いが予定されている解約金です。
未払信託報酬	支払いが予定されている信託報酬の額です。
その他未払費用	支払いが予定されている監査費用、その他の費用です。
純資産総額(資産－負債)	ファンドが保有する財産の合計から支払いが予定されている金額の合計を差し引いたものです。
元本	ファンド全体の元本残高です。
次期繰越損益金	純資産総額と元本の差額(翌期に繰り越す損益金の合計額)です。
受益権総口数	受益者が保有する受益権口数の合計です。
1(万)口当たり基準価額	1(万)口当たりのファンドの時価です。

用語解説

○損益の状況は、期中にファンドがどのような収益や損失を計上したかを表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
配当等収益	ファンドが受取った配当金・利息等の合計です。
受取配当金	保有する株式等の配当金等です。
受取利息	債券、コール・ローン等の利息等です。
有価証券売買損益	有価証券の売買損益と期末の評価損益の合計額です。
売買益	売買益と期末評価益の合計です。
売買損	売買損と期末評価損の合計です。
信託報酬等	信託報酬のほか保管費用、監査費用、その他の費用と、それに掛かる消費税等相当額です。
当期損益金	当期における収支合計です。
前期繰越損益金	前期分の分配準備積立金と繰越損益金の合計額から当期中の解約に対する持分を控除した金額です。
追加信託差損益金	受益者がファンドに払い込んだ金額と元本との差額です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
計	収益分配前の期中の収支の総合計です。
収益分配金	期中の分配可能額から受益者に支払われる分配金です。
次期繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の合計です。
追加信託差損益金	翌期に繰り越す追加信託差損益金です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
分配準備積立金	翌期に繰り越す分配準備積立金の額です。
繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の額です。

○分配金のお知らせ

	第73期	第74期	第75期	第76期	第77期	第78期
1 万口当たり分配金（税引前）	30円	30円	30円	30円	30円	30円
支払開始日	各決算日から起算して5営業日までの間に支払いを開始します。					
お支払場所	取得申込みを取扱った販売会社の本店					

<お知らせ>

該当事項はございません。

インフラ関連好配当資産マザーファンド

マザーファンドの運用報告書につきましては、ベビーファンドの運用報告書と作成対象期間が異なる場合には、データ・コメント等に不一致が生じることがありますのでご了承ください。

インフラ関連好配当資産マザーファンド 第7期 運用状況のご報告 決算日：2021年5月14日

当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	主として、わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の株式等および不動産投資信託証券（以下、「J-REIT」といいます。）に投資を行い、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の株式等およびJ-REITを主要投資対象とします。
投資制限	株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		合成指数		株式組入比率	投資信託証券組入比率	純資産額
	期騰落	期中率	(参考指数)	期騰落			
	円	%	ポイント	%	%	%	百万円
3期(2017年5月15日)	10,853	5.8	119.44	8.3	48.7	47.7	50,450
4期(2018年5月14日)	12,175	12.2	131.28	9.9	52.4	44.7	35,857
5期(2019年5月14日)	11,964	△ 1.7	130.76	△ 0.4	46.5	50.9	26,560
6期(2020年5月14日)	11,281	△ 5.7	121.92	△ 6.8	47.1	49.3	16,459
7期(2021年5月14日)	15,162	34.4	161.88	32.8	42.5	53.7	16,944

(注) 基準価額は1万口当たり。

(注) 合成指数は当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。合成指数は、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）50%および東証REIT指数（配当込み）50%を合成したものです。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		合 成 指 数		株 組 入 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(期 首) 2020年 5月14日	円 11,281	% —	ポイント 121.92	% —	% 47.1	% 49.3
5 月 末	12,075	7.0	131.45	7.8	46.9	49.2
6 月 末	12,089	7.2	130.24	6.8	42.9	53.9
7 月 末	12,054	6.9	127.82	4.8	47.4	50.3
8 月 末	12,795	13.4	136.67	12.1	47.8	48.9
9 月 末	12,849	13.9	136.95	12.3	47.6	49.7
10月 末	12,421	10.1	131.54	7.9	52.5	44.7
11月 末	13,264	17.6	141.10	15.7	53.9	43.3
12月 末	13,844	22.7	147.47	21.0	42.6	55.2
2021年 1月 末	14,089	24.9	150.52	23.5	52.2	45.7
2 月 末	14,545	28.9	156.73	28.6	48.2	49.9
3 月 末	15,285	35.5	164.83	35.2	51.8	45.7
4 月 末	15,475	37.2	164.71	35.1	42.1	54.6
(期 末) 2021年 5月14日	15,162	34.4	161.88	32.8	42.5	53.7

(注) 騰落率は期首比。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2020年5月15日～2021年5月14日)



(注) 参考指数は、合成指数です。

(注) 参考指数は、期首(2020年5月14日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

(国内株式)

・東京エレクトロン、伊藤忠商事、ヤマトホールディングスなどへの投資。

(J-REIT)

・日本都市ファンド投資法人、野村不動産マスターファンド投資法人、G L P投資法人などへの投資。

(主なマイナス要因)

(国内株式)

・伊藤忠テクノソリューションズ、西日本旅客鉄道、日東紡績などへの投資。

(J-REIT)

・MCUBS MidCity投資法人への投資。

投資環境

(2020年5月15日～2021年5月14日)

国内株式市場は、緊急事態宣言の解除による経済活動正常化への期待などから上昇して始まりました。その後は、米大統領選挙が大きな混乱なく終了したことや、米国や英国などにおいて新型コロナウイルスのワクチン接種が開始されたことを受けて、世界経済の早期正常化に対する期待が高まり、2020年末にかけて上昇しました。2021年に入ってから、2020年10-12月期の企業業績が事前予想を大きく上回り、通期の業績見通しが上方修正されたことに加え、世界的に新型コロナウイルスの新規感染者数が減少に転じ、国内でも医療従事者向けにワクチン接種が始まったことなどから上昇しました。しかし期末にかけては、米国の長期金利が急上昇したことや、国内で新規感染者数が再び増加したことなどが嫌気され、上値の重い展開となりました。

J-R E I T市場は、2020年6月以降、新型コロナウイルスの感染再拡大に対する懸念やテレワーク増加によるオフィス市況の先行き不透明感などが下落要因となる一方、低金利政策の長期化観測や新型コロナウイルスのワクチン開発期待から下値も限定的となり、もみ合いとなりました。その後、経済活動正常化への期待に加え、日本株対比での出遅れ感などから、2021年2月中旬にかけて上昇しました。3月上旬にかけては、米金利上昇の悪影響が意識されたことなどから下落しましたが、米国の金利上昇に一服感が見られたことや世界的に新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいることから、投資家のリスク選好姿勢が強まり、再び上昇しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2020年5月15日～2021年5月14日)

銘柄選択ならびに資産配分に関して、りそなアセットマネジメント株式会社の投資助言を受けました。

資産配分に関しては、2020年10月から11月、2021年1月、3月は株式への投資比率をJ-R E I T比で概ね高めとする一方、2020年6月、12月、2021年4月は株式への投資比率をJ-R E I T比で概ね低めとしました。2020年5月、7月から9月、2021年2月は、株式とJ-R E I Tの投資比率は概ね同等としました。

国内株式では、新型コロナウイルスのワクチン接種の開始による経済活動の回復やインフラ設備投資、脱炭素政策、社会のデジタル化などコロナ禍収束後の社会を見据えた銘柄入れ替えを行いました。社会インフラの低炭素化・脱炭素化に貢献することが期待できる電気機器株や社会のデジタル化による半導体需要の増加の恩恵が見込まれる化学株を新規で組み入れました。一方、新型コロナウイルスの影響が長引く中で業績回復が遅れている陸運株などを売却しました。

J-R E I Tでは、相対的に高水準の配当金の確保を図りつつ、長期的な値上がり益の確保を目指して運用を行いました。新型コロナウイルスのワクチン接種の開始などにより、需要の回復が期待されるオフィス型リート銘柄を買い増しする一方、テナントの退去やホテルの稼働率低下による収益悪化が懸念される複合型リート銘柄を一部売却しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2020年5月15日～2021年5月14日)

当ファンドは特定のベンチマークを設けておりませんが、基準価額の騰落率は、参考指数(東証株価指数(T O P I X)(配当込み)50%および東証R E I T指数(配当込み)50%を合成した指数)の騰落率を1.6%上回りました。詳細につきましては、前掲の「基準価額の主な変動要因」をご参照ください。

今後の運用方針

国内株式市場は、堅調な推移になると予想します。英国や米国など新型コロナウイルスのワクチン接種が進む国では、経済正常化への道筋が見えてきました。これまで接種が遅れていた国内でも、接種ペースが加速すると見られています。今後、ワクチン接種の進展に伴い、製造業の回復が先行していた企業業績では、遅れていたサービス業についても回復が鮮明になると見えています。堅調な米国株式市場に対し出遅れ感が目立つ国内株式市場も、ワクチン接種が進むことで経済正常化への期待が高まり、上値を試す展開へ移行していくと予想しています。

J-REIT市場は、高値圏でもみ合う展開が続くと考えます。当面は緊急事態宣言の再発令による経済への悪影響や、投資家心理の悪化がJリート市場の上値を抑える要因になると見えています。しかし、緊急事態宣言の再発出による行動制限に対しても、リートの業績予想は2020年の経験を踏まえて保守的に作られていると見られ、業績下振れリスクは限定的と想定しています。また、不動産売買市況は新型コロナウイルス感染拡大後でも概ね堅調で、リートが保有する物件価格が安定していることも下支え要因になると見えています。

引き続き銘柄選択ならびに資産配分に関して、りそなアセットマネジメント株式会社の投資助言を受けます。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2020年5月15日～2021年5月14日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式) (投 資 信 託 証 券)	円 20 (11) (8)	% 0.146 (0.085) (0.061)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) そ の 他 費 用 (そ の 他)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 その他は、金銭信託支払手数料
合 計	20	0.146	
期中の平均基準価額は、13,398円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○ 売買及び取引の状況

(2020年5月15日～2021年5月14日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国	上場	千株	千円	千株	千円
内		3,020	7,584,226	4,392	10,601,347
		(134)	(-)		

(注) 金額は受渡代金。

(注) 単位未満は切捨て。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

インフラ関連好配当資産マザーファンド

投資信託証券

銘柄	柄	買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
		口	千円	口	千円
	エスコンジャパンリート投資法人 投資証券	130	13,703	147	15,851
	サンケイリアルエステート投資法人 投資証券	—	—	474	45,226
	S O S i L A 物流リート投資法人 投資証券	275	35,278	680	88,536
	日本アコモデーションファンド投資法人 投資証券	191	119,674	232	138,518
	MCUBS MidCity投資法人 投資証券	417	35,123	776	65,846
		(△ 1,331)	(△ 103,736)		
	産業ファンド投資法人 投資証券	1,201	217,789	1,268	231,703
	アドバンス・レジデンス投資法人 投資証券	550	181,341	673	211,122
	ケネディクス・レジデンシャル・ネクスト投資法人 投資証券	583	108,836	664	124,725
	アクティビア・プロパティーズ投資法人 投資証券	408	163,645	616	254,607
	GLP投資証券	2,052	330,599	2,542	413,327
	コンフォリア・レジデンシャル投資法人 投資証券	66	19,467	392	119,050
	日本プロロジスリート投資法人 投資証券	1,037	340,273	1,358	447,977
	星野リゾート・リート投資法人 投資証券	368	180,247	147	79,141
国	Oneリート投資法人 投資証券	80	19,812	423	115,680
	イオンリート投資法人 投資証券	715	92,934	900	115,745
	ヒューリックリート投資法人 投資証券	1,268	191,171	598	91,330
	日本リート投資法人 投資証券	297	113,333	223	81,824
	インベスコ・オフィス・ジェイリート投資法人 投資証券	3,415	51,516	11,127	182,617
	積水ハウス・リート投資法人 投資証券	555	42,058	2,436	181,566
	トーセイ・リート投資法人 投資証券	—	—	1,042	111,132
	ケネディクス商業リート投資法人 投資証券	311	68,221	203	46,563
	ヘルスケア&メディカル投資法人 投資証券	381	49,793	378	48,875
	サムティ・レジデンシャル投資法人 投資証券	262	27,173	328	34,552
	野村不動産マスターファンド投資法人 投資証券	1,710	254,727	2,362	346,543
	ラサールロジポート投資法人 投資証券	1,073	184,466	1,257	211,272
	スターアジア不動産投資法人 投資証券	658	38,368	403	20,441
		(864)	(—)		
	三井不動産ロジスティクスパーク投資法人 投資証券	205	103,497	292	148,121
	投資法人みらい 投資証券	—	—	2,198	84,995
	三菱地所物流リート投資法人 投資証券	185	77,317	219	92,246
	CREロジスティクスファンド投資法人 投資証券	67	11,299	79	12,133
内	ザイマックス・リート投資法人 投資証券	—	—	20	2,373
	タカラレーベン不動産投資法人 投資証券	—	—	765	69,694
	伊藤忠アドバンス・ロジスティクス投資法人 投資証券	139	18,151	258	34,080
	日本ビルファンド投資法人 投資証券	926	557,480	125	82,355
	ジャパンリアルエステイト投資法人 投資証券	691	417,380	67	44,143
	日本都市ファンド投資法人 投資証券	2,290	334,376	2,591	342,607
		(3,011)	(103,736)		
	オリックス不動産投資法人 投資証券	1,181	197,333	1,552	251,637
	日本プライムリアルティ投資法人 投資証券	307	107,945	456	159,665
	NTT都市開発リート投資法人 投資証券	694	93,686	783	102,896
	東急リアル・エステート投資法人 投資証券	141	21,467	650	99,322
	グローバル・ワン不動産投資法人 投資証券	212	21,483	612	63,952
	ユナイテッド・アーバン投資法人 投資証券	1,267	151,357	1,463	189,068
	森トラスト総合リート投資法人 投資証券	309	40,397	1,334	175,592
	インヴェンシブル投資法人 投資証券	551	17,542	1,457	42,902
	フロンティア不動産投資法人 投資証券	467	178,333	173	64,582

インフラ関連好配当資産マザーファンド

銘柄		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	平和不動産リート投資法人 投資証券	326	36,593	521	61,883
	福岡リート投資法人 投資証券	867	130,598	20	3,542
	ケネディクス・オフィス投資法人 投資証券	72	45,916	117	75,036
	いちごオフィスリート投資法人 投資証券	589	48,959	1,006	74,192
	スターツプロシード投資法人 投資証券	250	49,162	819	163,945
	大和ハウスリート投資法人 投資証券	618	163,969	1,254	328,465
	ジャパン・ホテル・リート投資法人 投資証券	1,999	105,266	2,718	143,095
	大和証券リビング投資法人 投資証券	1,078	105,926	1,265	128,540
	ジャパンエクセレント投資法人 投資証券	336	42,743	1,373	180,568
	いちごグリーンインフラ投資法人 投資証券	—	—	412	28,421
	カナディアン・ソーラー・インフラ投資法人 投資証券	—	—	497	64,343
合 計	33,770 (2,544)	5,957,747 (—)	56,745	7,138,188	

(注) 金額は受渡代金。

(注) 単位未満は切捨て。

(注) ()内は分割・償還による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2020年5月15日～2021年5月14日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	18,185,574千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	8,479,652千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	2.14

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

(2020年5月15日～2021年5月14日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人との取引状況 B	B/A	%	うち利害関係人との取引状況 D	D/C	%
株式	百万円 7,584	百万円 1,584	20.9	百万円 10,601	百万円 2,233	21.1
投資信託証券	5,957	681	11.4	7,138	1,258	17.6

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	26,002千円
うち利害関係人への支払額 (B)	5,064千円
(B) / (A)	19.5%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三証券です。

○組入資産の明細

(2021年5月14日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
建設業 (5.7%)			
ショーボンドホールディングス	36.1	47.7	222,520
東鉄工業	43.5	—	—
五洋建設	287.4	—	—
協和エクシオ	—	64.9	188,469
化学 (7.7%)			
信越化学工業	—	18.3	329,766
富士フィルムホールディングス	30.8	32	226,208
ゴム製品 (2.3%)			
TOYO TIRE	69.6	77.4	162,075
ガラス・土石製品 (0.9%)			
日東紡績	30.6	18.8	67,304
機械 (9.8%)			
ディスコ	—	2.2	70,510
SMC	4	1.8	113,220
クボタ	—	131.7	343,341
ダイキン工業	14.1	5.1	108,655
ダイフク	21	7	67,550
電気機器 (21.0%)			
イビデン	—	56.4	252,672
日立製作所	—	69.7	375,264
富士電機	—	29.7	143,896
安川電機	44.3	—	—
富士通	18.8	—	—
TDK	16.9	4.9	66,395
キーエンス	8.2	2.1	108,423
ローム	—	14	139,020
村田製作所	46	17.1	141,417
東京エレクトロン	13.8	6.2	287,742
輸送用機器 (3.2%)			
豊田自動織機	43.7	25.7	232,585
電気・ガス業 (—%)			
中部電力	111.1	—	—
陸運業 (9.2%)			
東急	97.3	—	—

銘柄	期首(前期末)	当 期 末		
	株 数	株 数	評 価 額	
	千株	千株	千円	
西日本旅客鉄道	23.7	—	—	
ヤマトホールディングス	125.6	122.3	366,043	
センコーグループホールディングス	360.9	289.3	295,375	
セイノーホールディングス	245.4	—	—	
情報・通信業 (9.6%)				
野村総合研究所	—	88.5	283,200	
Zホールディングス	471.6	137.7	62,694	
日本電信電話	129.4	120	348,600	
KDDI	89	—	—	
エス・ティ・ティ・データ	178.8	—	—	
卸売業 (11.0%)				
シブヘルスケアホールディングス	32.4	73.1	201,171	
伊藤忠商事	245.4	95.1	313,734	
三井物産	156.6	115.3	276,489	
小売業 (4.5%)				
コスモス薬品	12.4	11	172,370	
日本瓦斯	—	78.7	151,182	
銀行業 (5.3%)				
三井住友フィナンシャルグループ	97.3	94.6	378,494	
証券・商品先物取引業 (6.0%)				
SBIホールディングス	77.8	50.5	142,309	
野村ホールディングス	—	505.8	291,745	
保険業 (3.8%)				
東京海上ホールディングス	69.9	50.4	276,645	
その他金融業 (—%)				
オリックス	153.3	—	—	
不動産業 (—%)				
東急不動産ホールディングス	295.5	—	—	
合 計	株数・金額	3,702	2,465	7,207,093
	銘柄数<比率>	35	34	<42.5%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

インフラ関連好配当資産マザーファンド

国内投資信託証券

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額	比 率
	口	口	千円	%
エスコンジャパンリート投資法人 投資証券	517	500	60,950	0.4
サンケイリアルエステート投資法人 投資証券	654	180	20,844	0.1
S O S i L A 物流リート投資法人 投資証券	733	328	47,068	0.3
日本アコモデーションファンド投資法人 投資証券	366	325	202,475	1.2
MCUBS M i d C i t y 投資法人 投資証券	1,690	—	—	—
産業ファンド投資法人 投資証券	1,562	1,495	286,741	1.7
アドバンス・レジデンス投資法人 投資証券	953	830	283,860	1.7
ケネディクス・レジデンシャル・ネクスト投資法人 投資証券	1,066	985	214,828	1.3
アクティビア・プロパティーズ投資法人 投資証券	731	523	258,100	1.5
GLP 投資法人 投資証券	2,893	2,403	429,175	2.5
コンフォリア・レジデンシャル投資法人 投資証券	554	228	77,862	0.5
日本プロロジスリート投資法人 投資証券	1,621	1,300	444,600	2.6
星野リゾート・リート投資法人 投資証券	—	221	138,125	0.8
O n e リート投資法人 投資証券	477	134	39,690	0.2
イオンリート投資法人 投資証券	1,546	1,361	200,611	1.2
ヒューリックリート投資法人 投資証券	519	1,189	203,556	1.2
日本リート投資法人 投資証券	290	364	153,608	0.9
インベスコ・オフィス・ジェイリート投資法人 投資証券	11,577	3,865	78,420	0.5
積水ハウス・リート投資法人 投資証券	3,417	1,536	135,936	0.8
トーセイ・リート投資法人 投資証券	1,042	—	—	—
ケネディクス商業リート投資法人 投資証券	371	479	130,431	0.8
ヘルスケア&メディカル投資法人 投資証券	820	823	111,763	0.7
サムティ・レジデンシャル投資法人 投資証券	755	689	78,546	0.5
野村不動産マスターファンド投資法人 投資証券	3,488	2,836	469,074	2.8
ラサールロジポート投資法人 投資証券	1,421	1,237	211,279	1.2
スターアジア不動産投資法人 投資証券	700	1,819	101,136	0.6
三井不動産ロジスティクスパーク投資法人 投資証券	437	350	189,700	1.1
投資法人みらい 投資証券	2,198	—	—	—
三菱地所物流リート投資法人 投資証券	308	274	120,149	0.7
CRE ロジスティクスファンド投資法人 投資証券	545	533	90,876	0.5
ザイマックス・リート投資法人 投資証券	149	129	14,577	0.1
タカラレーベン不動産投資法人 投資証券	765	—	—	—
伊藤忠アドバンス・ロジスティクス投資法人 投資証券	443	324	43,254	0.3
日本ビルファンド投資法人 投資証券	—	801	543,078	3.2
ジャパンリアルエステイト投資法人 投資証券	—	624	404,976	2.4
日本都市ファンド投資法人 投資証券	977	3,687	390,084	2.3
オリックス不動産投資法人 投資証券	2,108	1,737	326,382	1.9
日本プライムリアルティ投資法人 投資証券	771	622	260,929	1.5
NTT都市開発リート投資法人 投資証券	1,270	1,181	183,055	1.1
東急リアル・エステート投資法人 投資証券	902	393	71,486	0.4
グローバル・ワン不動産投資法人 投資証券	935	535	63,825	0.4
ユナイテッド・アーバン投資法人 投資証券	2,023	1,827	293,416	1.7
森トラスト総合リート投資法人 投資証券	1,025	—	—	—
インヴェンシブル投資法人 投資証券	3,036	2,130	91,590	0.5
フロンティア不動産投資法人 投資証券	174	468	223,704	1.3

インフラ関連好配当資産マザーファンド

銘	柄	期首(前期末)	当 期 末		
		口 数	口 数	評 価 額	比 率
		口	口	千円	%
平和不動産リート投資法人	投資証券	930	735	117,379	0.7
福岡リート投資法人	投資証券	—	847	144,837	0.9
ケネディクス・オフィス投資法人	投資証券	216	171	133,893	0.8
いちごオフィスリート投資法人	投資証券	1,267	850	78,200	0.5
スターツプロシード投資法人	投資証券	801	232	50,831	0.3
大和ハウスリート投資法人	投資証券	1,774	1,138	337,189	2.0
ジャパン・ホテル・リート投資法人	投資証券	3,582	2,863	180,655	1.1
大和証券リビング投資法人	投資証券	1,969	1,782	197,267	1.2
ジャパンエクセレント投資法人	投資証券	1,260	223	33,048	0.2
タカラレーベン・インフラ投資法人	投資証券	410	410	51,373	0.3
いちごグリーンインフラ投資法人	投資証券	740	328	22,533	0.1
カナディアン・ソーラー・インフラ投資法人	投資証券	936	439	55,884	0.3
合 計	口 数 ・ 金 額	71,714	51,283	9,092,861	
	銘 柄 数 < 比 率 >	53	52	< 53.7% >	

(注) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2021年5月14日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	7,207,093	42.5
投資証券	9,092,861	53.6
コール・ローン等、その他	659,627	3.9
投資信託財産総額	16,959,581	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

インフラ関連好配当資産マザーファンド

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2021年5月14日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	16,959,581,108
コール・ローン等	474,835,232
株式(評価額)	7,207,093,250
投資証券(評価額)	9,092,861,650
未収入金	11,848,263
未収配当金	172,942,713
(B) 負債	15,278,054
未払解約金	15,275,200
未払利息	197
その他未払費用	2,657
(C) 純資産総額(A-B)	16,944,303,054
元本	11,175,481,017
次期繰越損益金	5,768,822,037
(D) 受益権総口数	11,175,481,017口
1万口当たり基準価額(C/D)	15,162円

- (注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、1,5162円です。
- (注) 当ファンドの期首元本額は14,590,260,232円、期中追加設定元本額は544,175,608円、期中一部解約元本額は3,958,954,823円です。
- (注) 当親ファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額は、以下の通りです。
- インフラ関連好配当資産ファンド(毎月決算型)(米ドル投資型)
6,167,969,959円
- インフラ関連好配当資産ファンド(毎月決算型)(円投資型)
2,796,594,408円
- インフラ関連好配当資産ファンド(毎月決算型)(豪ドル投資型)
2,210,916,650円

○損益の状況 (2020年5月15日～2021年5月14日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	561,975,855
受取配当金	558,038,409
受取利息	2,777
その他収益金	4,056,230
支払利息	△ 121,561
(B) 有価証券売買損益	4,641,419,861
売買益	4,998,324,586
売買損	△ 356,904,725
(C) その他費用等	△ 44,832
(D) 当期損益金(A+B+C)	5,203,350,884
(E) 前期繰越損益金	1,868,902,338
(F) 追加信託差損益金	147,145,992
(G) 解約差損益金	△1,450,577,177
(H) 計(D+E+F+G)	5,768,822,037
次期繰越損益金(H)	5,768,822,037

- (注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。
- (注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
- (注) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

<お知らせ>

該当事項はございません。